

D 若者世代定着と若者が関わりやすい地域運営体制(2020～2021年)

企画情報部 地域研究科
研究員 貫田

◇概要

人口減少が進む中山間地域では、Uターン・Iターンの促進や若い世代の定着が課題となっています。本研究では、移住促進(特にUターン)と定住促進(若者世代が関わりやすい地域づくり)の両視点が重要という考えに基づき、Uターン者へのヒアリング調査や若い世代が地域活動に積極的に参加している地域を対象としたヒアリング調査を実施し、若い世代の定着に必要な条件や次世代のUターンの仕組みについて検討します。

◇課題と研究の目的

若者世代の定着は人口対策の観点において、そして地域の活動を維持していく上でも重要な課題であると言えます。全国的に移住・定住に関する施策・事業が展開されている状況で今後も若者世代の定着を促進するためには、次世代のUターンの仕組づくり(Uターン人材還流)と若い世代が住み続けるための条件整備という観点も必要です。

本研究では1. 市町村ごとの転出入の特徴把握、2. Uターンプロセスの把握、3. 若者世代が関わりやすい地域づくりの条件把握の観点から、中山間地域における若い世代の定着のための条件について明らかにすることを目的としています。

◇研究の方法

研究項目		目指す到達点
1.市町村毎の転出入の特徴把握	⇒	■各市町村の転出入のデータを分析し、市町村毎の特徴を整理
2.Uターンプロセスの把握	⇒	■Uターンの要因(家庭環境・同世代とのつながり・ふるさとへの愛着・仕事等)の整理 ■アプローチすべき他出者層とその手法や支援体制を整理し、県内のUターンを促進
3.若者世代が関わりやすい地域づくりの条件の把握	⇒	■若者世代の定着のための条件を整理(地域との関わりに注目) ■若者が関わりやすい地域の運営の条件や運営体制を把握

1. 市町村ごとの転出入の特徴把握

手法:統計分析(「島根県人口移動調査」「平成30年度地域実態調査」等)

2. Uターンプロセスの把握

(1)Uターン者のライフストーリー分析

手法:Uターン者へのヒアリング調査

令和2年度は川本町で実施、令和3年度は隠岐の島町、飯南町で実施

項目:他出前の出身地に対する印象、他出意向の有無、他出後の地域との関わり

(2)Uターン可能性層の把握

手法:「ふるさと会員」へのアンケート調査 * 令和3年度は出雲市伊野地区で実施

項目:出身地への訪問頻度、今後のUターン意向

3. 若者世代が関わりやすい地域づくりの条件把握

手法:①若い世代が活躍する団体へのヒアリング調査

②次世代育成に取り組む地域づくりの中心世代を対象としたヒアリング調査

令和2-3年度通じて、飯南町、川本町、出雲市等で実施。

○研究の成果

- ・「ふるさと会員」に登録している60代の多くはUターンを検討していないが出身地に対する関心は高いこと、他出者へのはたらきかけについては現在の居住地や年代に区切った情報発信や関係性の構築が必要であることが明らかとなった(図2)
- ・Uターンに至る過程を4つの段階に整理し、Uターンを促進するために「Uターンの心理的基盤づくり」の必要性を提示した(図3・4)
- ・Uターン者による次世代育成の活動がふるさとへの愛着や誇りといった出身地に対する帰属意識の形成に影響を与えていることが窺えた(図4)

図1 これまでの研究との関係性

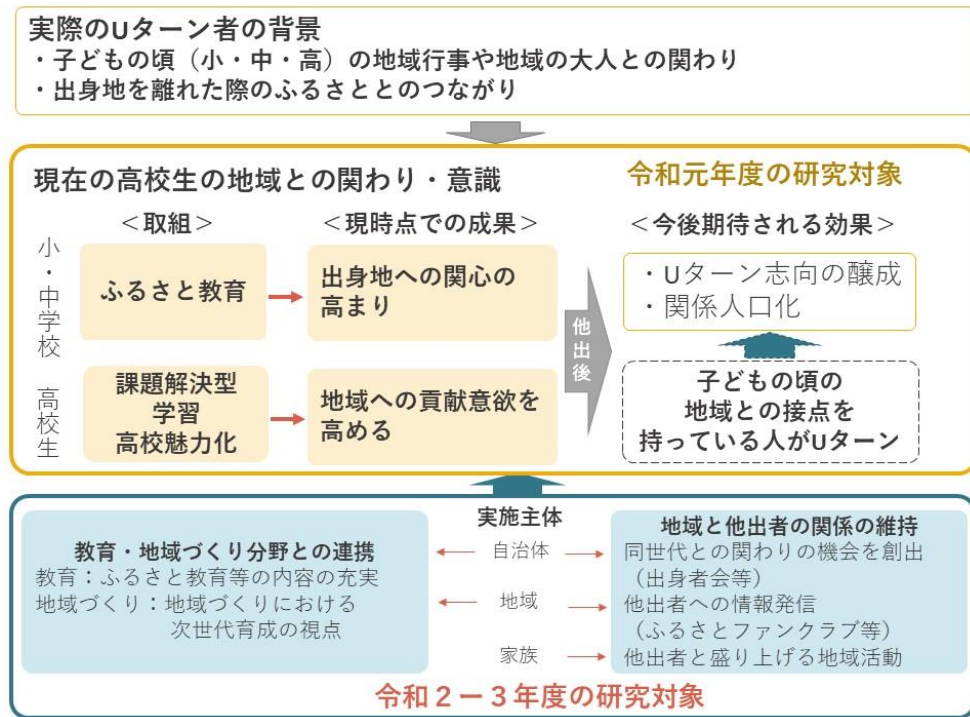
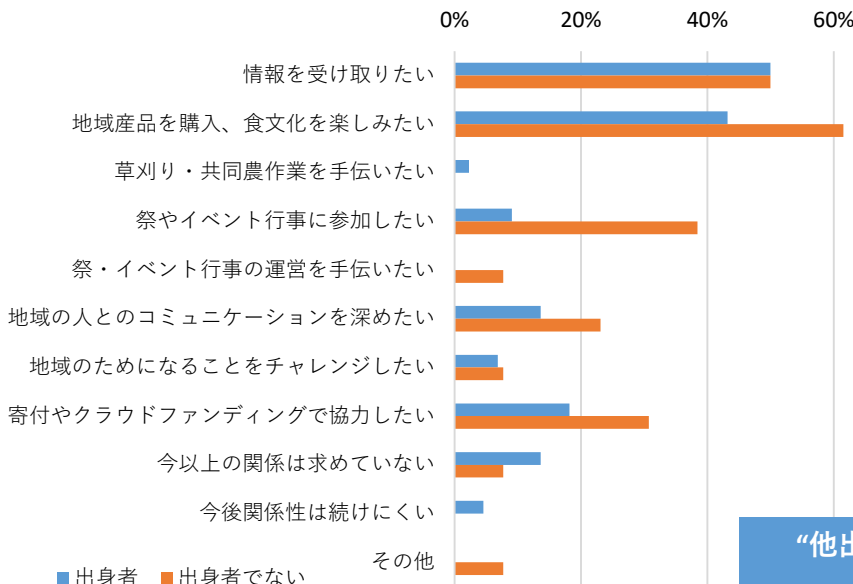


図2 ふるさと会員アンケートの結果

調査の目的：他出者への効果的な働きかけの内容を明らかにすること

グラフ1 伊野地区との関わりで今後求めること（出身者と出身者以外の比較）



特徴1

会員は60代が多く、Uターンを検討している者は少ないが **出身地に対する関心は高い**

特徴2（グラフ1）

・「情報を受け取りたい」「地域産品を購入、食文化を楽しみたい」の回答が多い

・出身者よりも、**出身者以外の方が「祭やイベント行事に参加したい」といったように現地を訪れる行動意欲が高い**（出身者は遠距離、出身者以外は近距離に居住している者が多いからと考えられる）

“他出者へのはたらきかけ”について
居住地や年代に区切った
情報発信や関係性の構築が必要

図3 Uターンに至る過程の整理

■ Uターン前後の出身地に対する意識の把握、地域づくりにおける役割の把握

- ・地域住民や出身地との良好な関係を築くことが重要 【Uターンの心理的基盤】
- ・地域の大人世代の地域づくりへの参加の様子が子どもにも伝わる

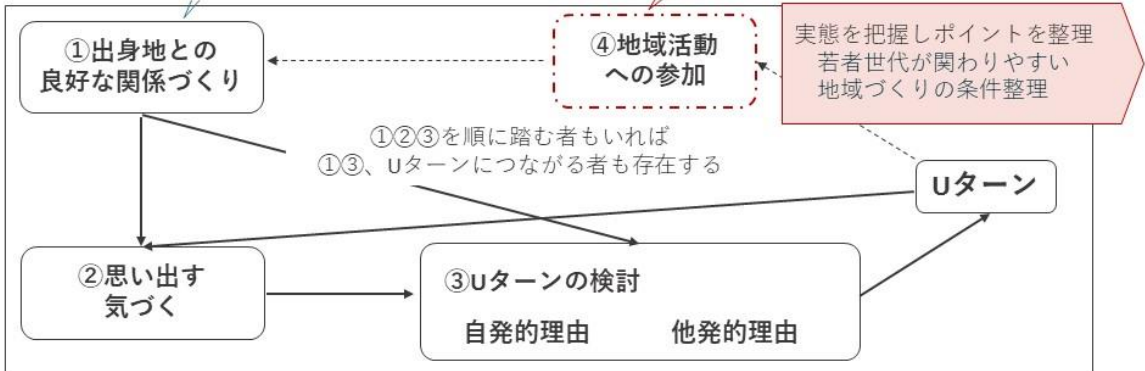
出身地に対する意識

出身地に対する消極的な印象が他出につながっていたのは2名のみ

Uターン者の地域づくりとの関わり

「子どもの頃に世話になっていた大人がいるので、自治会などでも意見が言いやすい」
 「自身が地域の大人に面倒をみてもらっていたこと、経験したことを今の子ども達にも経験させてやりたい」

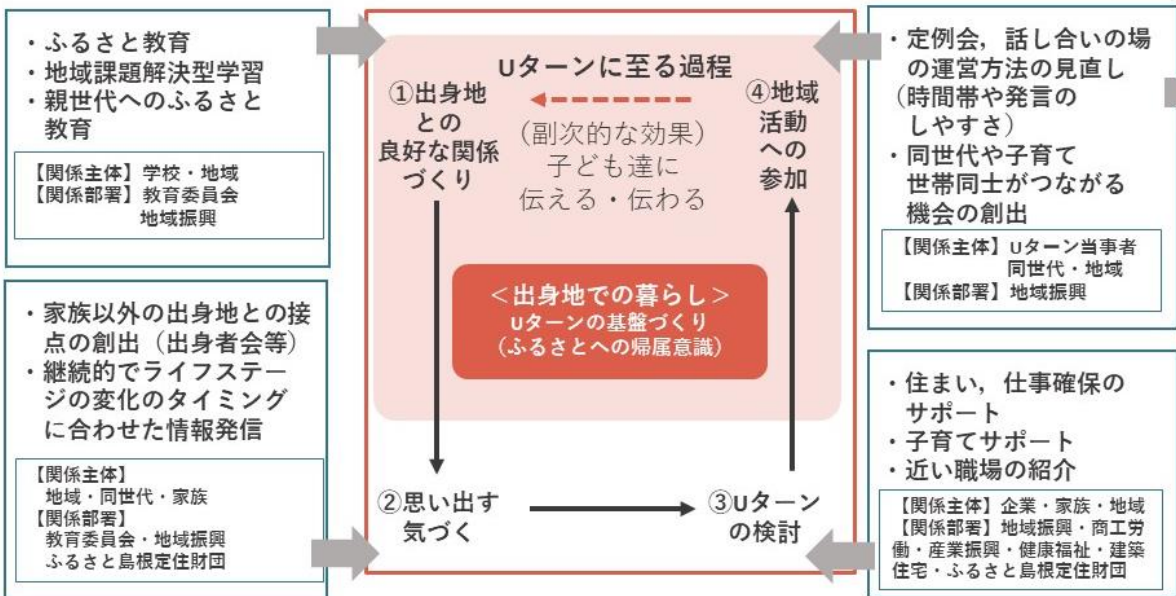
図 Uターンに至る過程の整理



資料：ヒアリング調査（2020,2021）より作成

注：---->は全ての回答者にみられたわけではないが、他出前の地域行事への参加経験や地域住民との関係性を活かし、Uターン後に地域活動における役割を果たしている者や次世代育成に積極的に参加する者が複数みられた

図4 Uターンに至る過程とUターンに必要な視点



* 若者世代の定着と地域づくりの参画との関係性

- ・Uターンの心理的基盤の形成にはUターン者を含めた若者世代の当事者意識の醸成や地域の課題への関心の高まり、地域活動への参加を促すことが必要
- ・そのためにはUターン者、Uターン者の強みを活かすこと、既存の地域づくりの動きとの接点も重要な視点である